



## パリ・ノートルダム大聖堂と首里城 2019年の火災を超えて文化遺産と復元を考える ～ WEB 展覧会を開設 ～

世界で最も有名な歴史的建造物の一つであるパリ・ノートルダム大聖堂は、2019年の火災により甚大な被害を受けましたが、半年後、沖縄のアイデンティティの象徴である首里城正殿も焼失しました。いずれも世界遺産の中に位置し、その焼損は世界中に大きな衝撃を与えました。様々な議論がある中で、これらの建物は事故前の姿に復元されることが決定され、作業がそれぞれ進められています。

火災当時のイコモス（国際記念物遺跡会議、International Council on Monuments and Sites ; ICOMOS）会長であり、現在名誉会長でもある九州大学河野俊行理事・副学長は、文化遺産の被災と復興の問題を研究対象とし、イコモスにおいても様々なプロジェクトを指揮してきました。河野理事はノートルダム大聖堂の被災によって、この問題には建築にとどまらないより多角的なアプローチが必要であると考え、文化的な背景も価値も異なる首里城正殿を同時に扱うWeb展覧会を日仏の専門家達と企画しました。この度2年の準備期間を経て展覧会が三か国語（日・英・仏）で完成しました。

(<https://www.notredame-shurijo.com/index.shtml>) 本Webサイトでは、二つの建造物を比較する形で、建造の歴史、国家社会的意義、復元が直面する困難とその克服、社会の反応や復元後の将来等多岐にわたるテーマを、三百数十枚に及ぶ画像を用いて平明に解説されており、教材にも利用できる仕上がりとなっています。

なお本展覧会は、独立行政法人日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」の成果の一部であり、また九州大学の財政的支援も受けて実施されました。

〈WEB展覧会サイト : <https://www.notredame-shurijo.com/index.shtml>〉



河野理事からひとこと：日仏の歴史的建造物の様々な違いを超えて、被災文化遺産の復元という共通課題について、フランスの専門家達と二年間数十回にわたって議論してきた成果が結実しました。

【お問い合わせ】九州大学理事・副学長/主幹教授 河野 俊行

TEL:092-802-2106

Mail:konoto@law.kyushu-u.ac.jp